

## 予算特別委員会審査から④

神戸市は、昨年4月に兵庫・長田区中心に市バス路線の縮小・廃止・大幅減便をおこない、「不便で困る」という声が続出しています。にもかかわらず、今年4月には灘・東灘区でも路線再編が計画され、地域から見直しを求める陳情が提出されています。大かわら議員は、利用者の声を聞かず一方的におこなう路線の再編は見直すべきと質しました。

### 答弁ダイジェスト

**城南局長：**市バス事業の経営は危機的状況だ。各路線を何も変えずに置いてお

#### 質疑項目

1. 市バスの路線再編について
2. 市バス・地下鉄の乗客増対策について
3. 地下鉄のワンマン化の中止について

くことはできない。広報紙と交通局のホームページでお知らせし、今後はバス停でも案内する。

**大かわら議員：**日常生活で使っている貴重な路線が突然なくなれば、怒りや不安な思いもある。そういった声は届いていないのか。

**児玉副局長：**いくつか聞いている。頂いた意見は貴重なものとして活用していく。

**大かわら議員：**兵庫区では再編して1年経つが、いまだに混乱が続いている。私がおこなったアンケートでは、「元に戻してほしい」「外出の機会が減った」などの意見があった。当局の施策で市民の足を奪っているのではないか。

3月7日

### 利用者の声聞かず 路線再編の強行やめよ 交通局審査で大かわら鈴子議員



質問する大かわら鈴子議員

**児玉副局長：**乗り継ぎをすれば目的地には行ける手段は確保している。

**大かわら議員：**減便で車内が混んでいて乗れなかった車椅子の方や、乗り継ぎが大変で通院を諦めた方もいる。路線を減らすのではなく、市民の声を聞いて、公共交通として市民福祉の向上にこそ力を尽くすべきだ。

3月10日

### 削減ありきではなく、 入居者の声聞いて市住整備を 建築住宅局審査で前田あきら議員



質問する前田あきら議員

神戸市が2021年に公表した第3次マネジメント計画は、計画当初4万7000戸弱あった市営住宅を約7000戸削減し、管理戸数を2030年度末に阪神・淡路大震災前の水準である4万戸未満にすることを目指すとしています。しかし、なぜ震災前の水準に削減する必要があるのか、根拠が明確になっていません。震災から30年が経ち、市民生活の実態から市営住宅のニーズも高まっています。前田議員は、

1. 市営住宅マネジメント計画について
2. 年数を経た団地への支援について

#### 質疑項目

応募倍率が高い状況を考えても、マネジメント計画は戸数削減を目標としないよう見直すべきと求めました。

### 答弁ダイジェスト

**前田議員：**再編対象住宅を一斉に募集停止したために、移転先の受皿として周辺の500戸以上の募集がなくなった。名谷周辺では定時募集がない。これではまちの衰退につながるのではないか。

**田中部長：**廃止か改修かの手法は決まっていないが、相当数の住宅を廃止することになる。名谷周辺は一般期限付入居住宅で募集している。(募集が)一切ないということはない。廃止住宅からの移転

が完了したら速やかに募集を再開する。

**前田議員：**まだ聞き取りもしていない状況でなぜ「相当数削減」という発言ができるのか。この計画は削減ありきなのか、良好なストックをつくるための整備なのか。

**根岸局長：**空き家が多い郊外は当然集約し、良好な所はエレベーターもつける。震災前と同じ4万戸でもグレードは上がる。

**前田議員：**入居者の意向を聞き、エレベーターを設置して継続することを基本とすべきだ。

3月10日

### 学童施設基準を満たし、 学童保育の環境を改善せよ こども家庭局審査で松本のり子議員



質問する松本のり子議員

#### 質疑項目

松本のり子議員

1. 学童保育の環境改善について
2. 認可保育園への人件費に対する独自加算について

森田たき子議員

3. 一時保護施設の職員体制強化について
4. 高校生の通学定期補助について

神戸市は、「神戸の放課後児童クラブ(学童保育)の基準」において、学童保

育施設は「1人につきおおむね1.98㎡以上を確保するよう努める」としていま

す。現在、ガイドラインの基準を下回っている施設が市内に22施設あります。そのうち東灘区内では基準を下回っている施設は4施設ありますが、地域福祉センターや神社内の部屋など校外の施設を使ってもなおガイドライン基準を満たすことができず、子どもたちは毎日劣悪な環

境のなかで生活しています。松本議員は、すべての施設で基準を満たせるようにすべきと質しました。

### 答弁ダイジェスト

**松本議員：**少なくとも2年連続して基準を満たしていない施設については、来年度には基準を満たすよう取り組むべきだが、どんな計画を持っているのか。

**岩城副局長：**国の「放課後支援パッケージ2025」に基づいて教育委員会と連携し、原則として小学校内で実施場所をまず確保し、各小学校の状況を踏まえうえで学校内を第一に場所の確保に取り組んでいく。

**松本議員：**来年度から小学校6年生も35人学級になることで、学校によっては使用する教室数が増える。特別教室がなくなる場合もでてくる。グラウンドを使っているところでは、真夏は使える状態ではないといっている。中学校のグラウンドを借りていても部活をやっているの でなかなか使えないのが実態だ。学校内でなければならないというのではなく外部の施設も考えていくべきだ。

### 今後の整備見込み

東灘区4か所、灘区2か所、兵庫区2か所、須磨区1か所、垂水区1か所、北区2か所、西区1か所

3月10日

## 環境汚染をすすめる 石炭火力発電所中止を 環境局審査で味口としゆき議員



質問する味口としゆき議員

神戸市は、神鋼石炭火力発電を容認・推進し、プラスチック分別収集に背を向け、さらに芦屋市のごみ焼却まで神戸市が引き受けるなど焼却第一主義に固執しています。このもとで、神戸市域の温室効果ガス排出量は6年ぶりに増加するという気候危機打開に逆行する事態となっており、その是正はまったなしです。神戸製鋼所は「脱炭素」と称して、アンモ

1. 芦屋市との広域処理について
2. ごみの減量資源化について
3. 温室効果ガスの排出抑制について

質疑項目

ニア混焼・専焼を進めるとしていますが、アンモニアは燃焼すると亜酸化窒素など窒素酸化物を排出します。亜酸化窒素の温室効果作用は、二酸化炭素の約300倍であり、地球温暖化防止に逆行するものです。さらに、窒素酸化物は、人体に取り込まれると、呼吸器疾患の原因ともなり、光化学スモッグ・酸性雨の原因となって、近隣の住民や自然への悪影響が大きいものです。味口議員は、神鋼の石炭火力発電所は、住宅地から400メートルに位置することを示し「神戸市は

石炭火力発電所の中止を求めるべき」と追及しました。

### 答弁ダイジェスト

**味口議員：**神鋼石炭火力発電所のCO<sub>2</sub>排出量は年間1000万トンを超える。神戸市域全体の排出量は859万トンだ。市民と神戸市の気候危機打開の努力を、1つの企業で踏みにじっているのかと環境局として声を上げ、少なくとも神鋼に自主アセスを求めるべきだ。

**藤井副局長：**様々な取組でカーボンニュートラルに挑戦する神鋼の取り組みに注視していきたい。

**味口議員：**注視だけでなく、神戸市の責任を果たすべきだ。

# 市民の声聞かないトップダウン改め、物価高騰に苦闘する市民の暮らしを 応援する市政へ

3月27日の神戸市会本会議で、日本共産党神戸市会議員団の森田たき子議員と西ただす議員、松本のり子議員が登壇し、討論をおこないました。

森田議員は、三宮再整備や神戸空港国際化などの大型開発には湯水のように莫大な事業費を費やす「放漫財政」、市民には住民税の超過課税の継続や国保料の独自減免廃止など「緊縮財政」をトップダウンで強行することは許されないと指摘しました。

西議員は、市民や議会の声に全く耳を傾けず、一方的に進める王子公園再整備について、議案を提出し直すべきと述べました。

松本議員は、「訪問介護の介護報酬引き下げ撤回を要請する意見書提出を求める請願」と「緑の基本計画にのっ

とり王子公園の自然環境を守  
ることを求める請願」の委員  
長報告に反対して討論をおこ  
ないました。

※討論の全文は「日本共産党神戸市会議員団」のホームページからご覧いただけます。



森田たき子議員



西ただす議員



松本のり子議員